

令和5年度 授業改善推進プラン 第3学年

小平市立小平第三小学校

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	- 学習支援ソフトを活用することで、本文の叙述から登場人物の気持ちを想像して読むことができるようになってきている。 - 自分の考えをもち、発表している。	- 文章を手掛かりにして、想像したことを言葉にする経験を重ねる必要がある。 - 漢字の定着が十分でなく、苦手な児童が多い。 - 文章を抜き出すことが苦手な児童がいる。	- 単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にする。 - 学習支援ソフトを用いて、文章を手掛かりにして、想像したことを言葉で表現する力をつける。 - 文を書くことへの抵抗を減らしたり、学習した漢字を使ったりできるようにするため、日記や作文、調べ学習を習慣づける。 - 学習支援ソフトを使用し、教科書上から簡単に文章を抜きだせるようにする。	- ノートの書き方が正しくできているかで評価する。 - 読み取りのテストで平均80点以上取れているかで評価する。 - 漢字テスト全クラス平均80点以上とれているかで評価する。
社会	- 資料を読み取り、自分の生活との関わりを踏まえながら理解できている。 - 意欲的に学習に取り組み、ノートにまとめている。 - 学習支援ソフトを活用し、資料を提示することで、より学習内容を深めることができた。	- 地図記号の定着に個人差がみられる。 - 調べる活動をする際、分かったことと考えたことの区別ができない児童がいる。 - 資料の着目するところを見つけないことが苦手な子がいる。	- 小平市の地理的環境、地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、自分の生活との関わりを踏まえて理解させる。 - 地域ではたらく人の工夫や努力に気付けるように、実際の見学も行う。 - 学習者用端末を活用し、資料の見方を説明したり、自分たちで資料を見つけさせたりする。	- ワークテストで80%以上とれているかで評価する。 - 振り返りやノートの記述を見て評価する。
算数	- 問題文を図や言葉で説明できる児童が増えてきている。 - 前学年のベーシックドリル診断テストでは、かけ算九九や、くり上がり、くり下がりのある2桁のたし算、ひき算、分数、数の構成は確実に身に付いていた。	- 単位換算が苦手である。特に、長さやかさ、時間を一つの単位で表すことに課題がある。 - 表にまとめる際に、数え落としや重なりがあるのに気が付かないことがある。 - 特別に支援を要する児童への手厚い指導の時間を確保する必要がある。 - 文章をよく読まない児童が多い。	- 朝のモジュールを活用して、計算をしたり、図形に使う用語を習熟させたりする。声に出して問題を読んだり、場面を図に表したりする活動を必ず行い、どの児童も問題を正しく読み取れるようにする。 - 積極的にタブレットドリルを活用し、習熟をはかる。 - 身の回りの物の長さを cm や m、km だけで表したり、普段飲んでいる飲み物などのかさをもL や dL、L だけで表したり、時刻や時間を聞く機会を多くしたりして、日常生活で活用できるようにする。 - 物を数えるときに印をつける習慣を付ける。	- 普段のワークテストで、80%以上とれているかで評価する。 - 東京ベーシックドリルの診断テストで、80%以上とれているかで評価する。 - ノートやホワイトボードに自分の考えを書く時間を確保し、説明ができているかどうかで評価する。 - CRT テストの変容で評価する。
理科	- 差異点や共通点を基に、比べたり、問題点を発見したりする学習を行っている。 - 単元の導入や学習後にビデオを見て学習を深めている。 - 問題に対して必ず予想を書き、実験に取り組んでいる。	- 観察カードへの取り組み方に個人差が出ている。 - 予想や気付いたことをノートに書ける際も個人差がある。	- 自ら考え、問題点を発見する手だてが必要である。 - 児童が関心をもつ活動を行い、そこから気付きを見つけ問題を作るようにする。 - 学習支援ソフトの映像や写真などの資料を有効に活用する。	- ワークテストで80%以上とれているかで評価する。 - 問題作りの授業では、記述から良い気付きや問題にコメントを書き、評価していく。 - 実験の予想の記述や実験方法の記録の仕方、振り返り等ノートの記述で評価する。

音楽	- 様々な楽器に触れさせて、音程や音色に興味をもっている。 - 体を使って表現することで、表現力が豊かになってきている。 - リコーダーの演奏は、姿勢や息の量に気を付けて取り組んでいる。 - 曲想を感じ取り、楽曲の特徴を気付くことができた。	- リコーダーの運指指導を繰り返し行う必要がある。 - 楽器の音色や声の音色を意識しながら取り組む必要がある。	- 歌詞やさし絵から情景を読み取らせる。 - グループやペアで発表することで曲のよさや表現することの素晴らしさを身に付けさせる。 - ICT やワークシートを用いて視覚化し、音楽表現について考えながら演奏させる。 - 音楽を構成している要素に着目させ、フレーズを意識する演奏になるように努める。	- ワークシート他の提出物で評価する。 - 実技テストで評価する。
図画工作	授業中に友達が作った作品を紹介することで、友達のよさを認めたり、自分の作品にアイディアを取り入れたりしている。	主体的に活動することに課題がある。	- 材料や用具の使い方を提案することで改善に努める。 - 造形遊び・作品製作と鑑賞のセット型学習を推進する。 - 作品をつくった後に必ず鑑賞を行い、言語化することで自己理解・他者理解を深める。 - 画一的なテーマ題材ではなく、描くものを自分で決めることのできる題材を設定する。	作品の製作過程や振り返りカードを通して、思いを表現するために必要な材料や色などを選択することができたか評価する。
体育	- 運動量の確保をしている。 - 毎時間振り返りを行い、次の時間につなげている。 - 動画を見て、ポイントを視覚的に捉えている。 - 考えを交流することで、動きにつなげられるようにしている。	- 恐怖感がなく、何事も動いてから考えることがある。 - 水泳の技能面において、個人差が大きい。	- どの授業でも、運動の時間や回数を多くするように心がけ、運動量の確保につなげる。 - ルールが簡単な鬼遊びやゲームを授業で取り入れ、休み時間や放課後の遊びにつなげ、体力の向上を図る。 - 体つくりの運動遊びをはじめ、自己の心と体の状態に気付く。様々な動きを取り入れ、総合的な体力の向上につなげる。 - 小さいボールから始め、いろいろなボールを投げる運動をする。 - 自分の工夫したことを友達と伝え合い、次につながるように振り返りを行う。 - 水泳学習の実施回数を増やし、経験を積ませる。	- 単元を通して学びに向かう力、知識・技能、思考力・判断力・表現力等をバランスよく見取れるよう、計画的に評価する。 - 体育カード等振り返りの記述で思考力・判断力・表現力等を評価する。 - 自らの動きを動画で記録して、課題を考えさせるようにする。
外国語活動	- 外国語に対して抵抗のある児童が少ない。 - 外国語に親しみ、楽しく歌ったり、友達と会話をしたりしていて、全体的に意欲的である。	- 楽しく活動することはできるが、正しい会話文になっていないことがある。 - 個々に発表させようとする、自信がない児童がいる。 - コミュニケーションが苦手なためワークに取り組めない児童がいる。	- コミュニケーションの時間を増やして、基本的な会話ができるようにする。また、基本的なコミュニケーションに慣れさせる。 - 何度も発音をさせ、自信をもってコミュニケーションができるようにする。 - 学習支援ソフトを用いて、動画の視聴や音声を通して、発音のニュアンスをしっかりと聞き、真似をさせる。	- 教師の英語での発問や ALT の会話の受け答えができていくかで評価する。 - 意欲的に発言、ペア活動をしているかで評価をする。 - 振り返りカードを活用して評価する。
道徳	自分のこととして考えたり、自己の行動を振り返ったりしている。	- 自分を振り返ることができたが、なかなか実践につながらなかった。 - 自分の考えを書くことができない児童がいる。	- 様々な考えを共有できるように、学習支援ソフトを活用する。 - 全体での話し合いでは、友達の意見を最後まで聞くように意識させる。 - ワークシートを活用して、自分のことについて書く活動を積み重ねる。	- 授業中の発言、つぶやきで評価できるように、メモをとる。 - 振り返りに今まで、これからの自分について記述できたかで評価する。